

今、先進諸国、なかんずく日本に迫りつき追いつき越せと、口に出さないがひしひしとした意気込みが感じられる。かつて日本がIMF総会、東京五輪などを踏み台にして世界の檯舞台に躍り出たと同様に、韓国もまたIMF総会、ソウル五輪などを契機として、先進国際社会への仲間入りを果たそうと努力しているのである。

エネルギー事情についても韓国は日本と酷似している。国内にはほとんど資源を持たない韓国は、原子力を軸として石炭・ガスなどエネルギーの多様化を図っている。

私の出席した日韓原子力産業セミナーは、日韓相互の原子力分野での協力を促進し、両国の原子力産業に寄与するために昭和五十四年に発足し、今回で七回目となる。

回を重ねるたびに、両者のニーズに合った議題が取り上げられ、今回のセミナーは「原子力産業の当面の課題について」を基調テーマとし、原子力発電所の改良標準化、経済性向上などの分野にわたり幅広い討議がな

する。

魚籃坂を挟んだ三田の台地に

された。双方にとって意義あるセミナーとなったが、特にこのセミナーにかける韓国側の熱意にはなみなみならぬものを感じた。

韓国は日本にとって一衣帯水の位置にある隣国でありながら、これまで近くて遠い国というイメージが強く、実情は意外に知られていない。しかしながら、温暖な気候に恵まれて、韓国人はユーモアを好み音楽を愛する、明るく朗らかな民族である。

原子力に限らず、文化その他あらゆる面で、よき隣人として未水く協力し合っていきたいものである。

高輪

木田 宏

日本学術振興会 理事長



勤めの関係から、しばらくの間の仮り住居と思つて移り住んだ都

心の生活であつたが、引き払うようになつてみると、港区高輪

の生活にも名残は尽きないものがある。

長年住み慣れた郊外から転じて来たときには、交通便利な近代都市生活が味わえると思つていた。

確かに、どこへ出かけるにしても、どこから帰るにしても、時間を気にする必要がない。夕刻からのいろいろな行事に、気軽にお付き合ひができて、交友を拡げたのも、地の利があつたればこそである。

住いは泉岳寺に近く、魚籃坂の西側斜面の上の台地にある。この坂は第一京浜国道に繋がる重要な道路と見えて、交通量がなかなか多い。

日に何度となく救急車が行き交う。上下する車の騒音に混つ

て、ちり紙交換や焼き芋の呼び声もよく響く。大きなゲンブやトラックが駆け抜けると、地鳴りとともに木造の二階がよく揺れる。けたたましい夜半の暴走族や、それを取り締るパトカーのサイレンに眠りを防げられることも、しばしばであった。一番閉口するのは、窓に付着するべつとりとした汚れであつて、

こんな廃ガスに汚染された空気からは、早く逃げ出したいと思うほどである。

しかし、こうした都心にありながら、町並の雰囲気は思いのほか古めかしい。旧東海道の二本榎の通りなど、高輪の台地が戦災に遭わなかったためであらう。

かつてのお屋敷跡に建ったマンションを支えるお店屋は、昔ながらの駄菓子屋、八百屋、散髪屋といった感じで、人情味も豊かである。清正公の縁日には、村祭りのように屋台が立ち並び、秋の祭には、そこかしこの町内から、沢山の御輿が繰り出されてくる。こんなところに、お社があつたかと驚かれるのである。

古いお寺も多く、散歩の楽しみも事欠かない。泉岳寺の裏手から品川の方へ坂道をたどつていくと、桂坂、洞坂を経て、東禅寺の門前が出る。

「都旧蹟 最初のイギリス公使宿泊所」と刻字した大きな石碑が門前にあるこの寺は、臨済宗妙心寺派の禅寺で、風格のある境内をもち、心静まる思いが

も、寛永年間からこの地に移された二十幾つものお寺が並び、

幽霊坂は、今なお、さこそと思わせる風情である。

江戸の名残の濃い、高輪の生活であつた。

